



容を作成しています。

先日、白糠高校の体育の授業にゲストティーチャーとして招かれ、高校生とバドミントンを通じて触れ合いました。

——新型コロナウイルスによりバドミントンができなかった間は、どのような活動をしていましたか。

チャンドラさん／バドミントンができなかった間は、主に日本語の勉強と自身のトレーニングを行っていました。漢字はとても難しいです。同じ漢字でも、使い方によって読み方が変わるので、それがよく理解でき

ません。トレーニングは、体のコンディションを整えるため今も欠かせません。白糠の食べ物がいまにもおいしいので、体型が少し変わってしまいました(笑)。ただ、刺身と納豆はちょっと苦手です。

ほかには、子どもたちの練習が再開になった時のための、メニューづくりも行っていました。

家では庭に畑をつくり、ナスやキュウリなどを育てています。インドネシアは暖かいので、すぐに芽が出てきますが、こちらでは、いつまで待っても芽がでてこないのが心配です(笑)。その反面、芽が出てくるのが楽しみでもあります。

昨年の10月に妻が白糠町へ引っ越して来ました。もし、コロナウイルスの自粛により、家に一人で居たと思ったら、つらかったと思います。

——バドミントンを指導している子どもたちは、この1年間でどのような変化がありましたか。

チャンドラさん／子どもたちのバドミントンの技術は、間違いなく上達しています。みんなの目にやる気が感じられますし、とても熱心に練習に取り組んでいますので、上達も早いです。練習では、人の話を聞くことがとても大切です、手本となる



人のまねをすることも大切なことです。そのためには、しっかり見て、聞いて、そしてやってみることです。今は、チューブなどで上手な選手の映像を見ることが出来ますので、ぜひ、日本代表選手や他の国のオリンピック選手のプレーを見て、まねしてほしいと思います。特に注視してほしいのは、フットワークとラケットワークです。

——バドミントンをやる子どもたちは増えましたか。

チャンドラさん／白糠中学校のバドミントン部に4人が入りました。また、少年団も昨年は3人でしたが、今年は10人入りましたので、少しずつですがバドミントンをやる子ども

たちは増えています。

茶路中学校でも、今年バドミントン部が復活しましたので、指導に行くようになりました。男子2人だけの部員でふたりとも初心者ですが、とても熱心に練習していますので、今から成長が楽しみです。

バドミントンは、早いうちから経験を積んでおいた方が有利なので、1人でも多くの子どもがバドミントンをやってくれることを期待しています。

——この1年間の子どもたちの主な活躍を教えてください。

チャンドラさん／昨年度の全道中学新人戦釧路地区予選会で、白糠中学校バドミントン部の男子の部が『団体・シングルス・ダブルス』の3部門で優勝を果たしました。顧問の先生に聞くと、もともと白糠中学校の実力は、管内でもトップクラスだそうなんです。ですが、これまでに3部門を独占することはなかったということなので、私もとてもうれしかったです。また、他の選手もこれまで勝てなかった相手に勝つことができた、力の差が歴然としていた相手にも善戦することができるようになるなど、力は着実に付いてきていると感じています。